

## < C A P プログラムについて >

### 1. C A P プログラムとは

Child Assault Prevention (子どもへの暴力防止) の略で、子どもたちがいじめ、誘拐、虐待、痴漢、性暴力といった様々な暴力から自分を守るための教育プログラムのことを言う。ワークショップ (参加型学習) の形をとっており、知識を中心に教え込む従来の学習形態と異なり、参加者が自ら考え、意見を述べ、ロールプレイ (役割劇) に加わるやり方で進める。

1978年にアメリカ・オハイオ州のコロンバスにあるレイプ救援センターで開発され、女性のための性暴力防止プログラムを、子ども防止の暴力防止プログラムとして応用発展させて作られた。日本には1985年に紹介され、各地に広まっている。

### 2. ワークショップの内容

ワークショップには「子どもワークショップ」と「大人ワークショップ」がある。「子どもワークショップ」では、例えば、暴力を受けるロールプレイを演じ、その後子どもたちと意見を交わしながら防止方法を考えるなど、普段あまり聞いたり話したりすることのない暴力という話題に子ども達が楽しみながら参加できるようにしており、また「大人ワークショップ」では講演会やセミナーの形などをとりながら、子ども達の安全な暮らしのために大人ができること、子ども達をどのようにサポートするかを具体的に提案している。

### 3. 現状

日本ではC A Pセンター・J A P A Nが1998年に設立され、全国のC A Pグループの支援とネットワークの推進を行っており、実際にC A Pワークショップを依頼するときは、まずC A Pセンター・J A P A Nに連絡し、グループを紹介してもらう。また、2005年7月現在、日本全国にC A Pを行うグループは140以上あり、活動を行っている。